様式１－１

文化遺産総合活用推進事業　実施計画

1 都道府県・市区町村名	岐阜県・羽島市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	羽島市伝統文化活性化事業	【計画の改善時期】 平成　年度	
4 実施計画期間	平成　27　年度　～　平成　33　年度		

5 実施計画の概要

1.はじめに
　平成27年度より、羽島市の竹鼻町に古くから伝わる祭りに繰り出す山車13輌を生かした地域活性化の取り組みを始めた。計画は、平成27年から平成33年までの7年間としている。平成27年度～平成29年度に取り組んできた山車の価値の再認識や情報発信を基盤に、平成30年度には、引き続き文化財である竹鼻祭の山車の周知・保護・継承を通して、観光振興につなげ、地域活性を図りたい。

2.羽島市の概要
　羽島市は岐阜県南部に位置し、東は木曽川、西は長良川に挟まれた輪中で知られた地域である。その中心地である竹鼻町は、江戸中期に京都西陣の桟留縞織が美濃縞織として定着し繊維の町として栄えた。

3.山車と竹鼻祭
　この竹鼻町の祭りは、竹ヶ鼻城主であった「不破源六広綱」が天正9(1582)年に、竹鼻城の鬼門除けとして、八劔神社を現在地に遷座した時に始まる。町ごとに山車の曳行を行い、からくり人形や手踊り、布袋の衣装での奉芸等が行われる。祭りでは、全輌が一カ所に並ぶ曳き揃えや夜山の曳行も行われる。昭和48年に、山車が県の有形民俗文化財の指定を受けた。

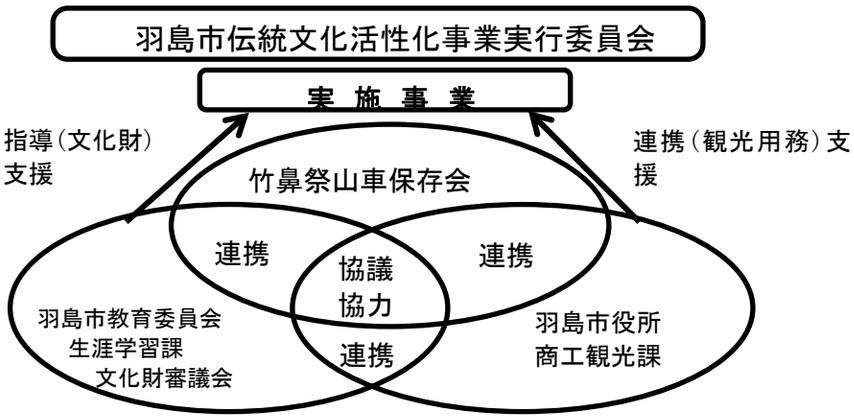
4.山車の幕とお囃子・人形操作
　竹鼻祭の山車を飾る幕は、羅紗の上に豪華な図柄で金銀の糸の刺繍が施されており、町民にとって誇りとなるものである。この幕は京都の幕専門の業者が見た際に、岐阜県随一と言われた。年数がたち幕の傷みが出てきている。また、祭りのお囃子は、民俗芸能学の村中利男氏に調査研究を依頼し、20年ほど調査研究を行い、その結果を本にまとめた。こうした資料を活用して、各町で、笛、鼓、太鼓によるお囃子の練習を行っている。

5.課題
　近年、竹鼻祭の中心となる竹鼻商店街の人口減少が顕著になってきた。そのため、山車の保存やお囃子の伝承に大きな支障が出てきている。例えば、山車や幕の保存については、経年劣化はもとより、保管や扱いについての専門的な知識をもった人材が不足しており、傷みが深刻である。また、お囃子の道具も同様に劣化が見られ、さらにその担い手の減少により演奏することとともに、節回しや技法を伝えることも困難になってきている。また、担い手の高齢化の影響で、幕や楽器の補修にかかる経費が大きな負担になっている。そのため、非常に貴重な観光資源となるべき山車であるにもかかわらず、幕の保存やお囃子の維持が困難となり、山車に対する誇りや町内で協同する象徴としての役割を果たせなくなっている。かつて14輌あった山車が13輌となり、残りの13町についても、その維持が共通の課題となっている。

6.計画の概要
　平成27年度～平成33年度の7年間で、特に課題となっている幕の修理やお囃子等の後継者育成等を解決し、その結果、これらの文化遺産を活用した保護・継承を図ることで、地域の絆づくりと観光客の呼び込みを行う。
・平成27・28年度―補修の緊急性の高い幕修理・記録作成・山車蔵公開・後継者育成・情報発信、普及啓発
・平成29・30年度―補修の緊急性の高い幕修理・記録作成・山車蔵公開・山車広域連携・後継者育成・情報発信、普及啓発
・平成31・32・33年度―補修の緊急性の高い幕修理・記録作成・山車蔵公開・山車広域連携・情報発信・竹鼻祭の学術的な調査研究(自主事業)

6 実施体制

事業は羽島市伝統文化活性化事業実行委員会が竹鼻祭山車保存会の協力を得て実施する。
羽島市が本実施計画に全面的に支援を行う。
教育委員会生涯学習課：補助事業のとりまとめ及び文化財の取り扱い等に関する指導、支援を行う。
産業振興部商工観光課：観光業務に関する連携及び支援等を行う。



7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 17,846 千円	平成30年度申請額： 7,195 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

イ)後継者育成事業
・お囃子の技能や山車の保存やお囃子などの継承に対する意識が高まる。
・後継者育成のための指導者が増える。
・幅広い年齢層が一緒に練習することができ、市民の連帯感が高まる。
・山車や文化遺産に対する意識が高まり保存・継承の意識が育つ。

ロ)竹鼻祭の山車の大幕・水引幕・見送幕修理及び山車公開事業
・山車に対する知識が増え、文化財としての認識が向上し、興味関心を高めることができる。
・竹鼻町の各町の象徴としての山車といった意識を高めることができる。
・観光資源としての活用価値を高めることができる。
・山車のことをはじめ、竹鼻町の歴史や町のことを紹介する人の増加により、山車説明ボランティアの増加につながる。
・町や市の人に身近にある文化財の価値を日常的に知ることができる。
・祭りの時期以外での観光の資源として利用が期待される。

ハ)竹鼻祭や山車の記録作成事業及び普及啓発事業
・山車や竹鼻祭について興味をもつ人が増える。
・山車や祭りに対する知識が増える。
・観光としての資源を見直すことができる。

ニ)情報発信事業
・竹鼻祭や山車の情報を提供し、羽島市のよさの周知が進む。
・竹鼻祭や山車に興味・関心をもつ人や羽島市を誇りに思う市民が増える。
・祭りの時期以外での集客が期待できる。
・公民館で行う関係講座に参加する人が増える。

ホ)外国人客の呼び込み事業
・羽島市を訪れる外国の観光客が増える。
・山車蔵や山車の見学に外国人の観光客が増える。
・外国人観光客の関心が、国内観光客にとってのブランドとなる。

ヘ) 山車広域連携事業
・他地域の文化財活用のノウハウを学び生かすことができる。
・広域的に相互のPRができ、集客ができる。
・山車についての全国的な位置づけや、価値を知り山車や町への愛着を高めることができる。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	―
事業概要：	―
事業概要：	―

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

現在、羽島市歴史文化基本構想について、羽島市の文化財保存活用の計画とともに検討を進めている。
特に、羽島市の場合には、豊臣秀吉の水責めや関ヶ原の前哨戦の歴史を持つ竹ヶ鼻城、またその城下町として栄えた古い町並みや、町ごとにからくり人形や絢爛な幕をまとった竹鼻祭の山車は大きな特徴となっている。また、尾張家家老の毛利氏が居城した八神城や同じく尾張藩家老であった石河氏の別邸などが存在することも特徴となっている。この石河氏の尾張藩家老としての役割や羽島市との関わりについて、関連資料の収集や実態の解明の努力を進めている。また、茶道の庸軒流が栄えた地でもあり、歴史とともに文化的な繁栄も明らかにし、これからの羽島市を考えていくための土台としていきたい。
これらの歴史的、文化的な価値について整理するとともに、市民への普及啓発、また、地域活性、観光資源としての活用に資するように体系化していきたい。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	羽島市教育委員会事務局　生涯学習課

様式１－１別紙①

7 実施計画における目標と期待される効果　別紙

目標区分１：	地域の文化資源を活用した集客・交流		
評価指標区分１：	地域の祭礼行事等への入込客数	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標１：	竹鼻祭の観光入込客数	関連事業:	2,3,5,6,7,8
目標値１：	【現状値】 平成 28 年度 125,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 125,000 人		
設定根拠１：	平成25年度（半輌曳行）祭り入込客数100,000人、平成26年度（全輌曳行）祭り入込客数125,000人のため、毎年度全輌曳行時と同じ人数を設定。		
進捗状況１：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
125,000 人	人	人	人	人	人
100%					

目標区分２：	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化		
評価指標区分２：	地域の祭礼行事等への入込客数	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標２：	竹鼻祭の観光入込客数	関連事業:	2,3,4,5,6,7,8
目標値２：	【現状値】 平成 28 年度 125,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 125,000 人		
設定根拠２：	平成25年度（半輌曳行）祭り入込客数100,000人、平成26年度（全輌曳行）祭り入込客数125,000人のため、毎年度全輌曳行時と同じ人数を設定。		
進捗状況２：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
125,000 人	人	人	人	人	人
100%					

目標区分３：	伝統文化の継承体制の維持・確立		
評価指標区分３：	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標３：	竹鼻祭の山車保存会数	関連事業:	1,2,3,4,5,6,7,8
目標値３：	【現状値】 平成 28 年度 13 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 13 団体		
設定根拠３：	竹鼻町の人口減の状況から現状維持を設定		
進捗状況３：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
13 団体	団体	団体	団体	団体	団体
100%					

目標区分４：	その他		
評価指標区分４：	・その他	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標４：	facebook「いいね」数の伸び率	関連事業:	5
目標値４：	【現状値】 平成 28 年度 15 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 15 %		
設定根拠４：	平成28年度前年比15%の伸び率を踏まえ、現状維持を設定。		
進捗状況４：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
8 %	%	%	%	%	%
-46.7%					

様式１－１別紙②

8（2）実施事業の概要　別紙

事業①：	後継者育成事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	後継者養成			事業期間：	平成　27　年度 ～ 平成　30　年度	
事業概要：	お囃子の能管や太鼓等の道具を買い替え、保存会を中心にした町内ごとの交流を定期的に行い、後継者育成を図る支援を行う。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	竹鼻祭山車保存会の会員団体数					
目標値：	【現状値】 平成　28　年度　13　団体 ⇒ 【目標値】 平成　30　年度　13　団体					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度	
13　団体	団体	団体	団体	団体	団体	
100%						

事業②：	竹鼻祭の山車の大幕・水引幕・見送幕修理事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	用具等整備			事業期間：	平成　27　年度 ～ 平成　33　年度	
事業概要：	劣化が激しく補修の緊急性の高い幕の修理。山車の曳行や展示の継続のため、幕の補修を行うとともに、修理をした幕の展示、文化財としての意味や価値を周知する。また、山車蔵をあけて一般に公開したり、公共施設に幕の展示を行ったりして文化財としての理解を図る。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	竹鼻祭山車保存会の会員団体数					
目標値：	【現状値】 平成　28　年度　13　団体 ⇒ 【目標値】 平成　33　年度　13　団体					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度	
13　団体	団体	団体	団体	団体	団体	
100%						

事業③：	竹鼻祭の山車公開事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成　27　年度 ～ 平成　33　年度	
事業概要：	年数回山車蔵を開放して、一般の市民及び観光客が参観できるようにし、竹鼻祭及びその山車の周知を図る。					
評価指標区分：	・その他				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	蔵の開放で山車への関心を高めることによる祭り入込客数					
目標値：	【現状値】 平成　28　年度　125,000　人 ⇒ 【目標値】 平成　33　年度　125,000　人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度	
125,000　人	人	人	人	人	人	
100%						

事業④：	竹鼻祭や山車の記録作成事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	記録作成			事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	修理状況や、祭りまでの営みを収録した映像を作成して記録に残す。また祭りの芸能（当日までの取組を含む）について記録を残し、それを公開することで祭りや山車のよさを周知する。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	記録公開で山車への関心を高めることによる祭り入込客数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 125,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 125,000 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
125,000 人	人	人	人	人	人	
100%						

事業⑤：	情報発信事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	パンフレット、HPやfacebookで祭りの準備、山車の文化財的価値を紹介する。また、平成27年度に作成した山車の魅力を伝えるパネルをコミュニティセンター等市内の諸施設に展示する。これらの活動を通して祭りや山車の様子の周知を図る。					
評価指標区分：	・ＳＮＳ上の情報発信の「いいね」の数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	Facebook「いいね」の数、前年度比15%増					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 15 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 15 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
8 %	%	%	%	%	%	
-46.7%						

事業⑥：	山車広域連携事業			実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会	
事業区分：	後継者養成			事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	他地域の山車を保有する団体と連携会議等、相互交流を年2～3回程度開催し、後継者育成や祭り運営等の意見交流を行う。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	竹鼻祭山車保存会の会員団体数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 13 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 13 団体					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
13 団体	団体	団体	団体	団体	団体	
100%						

事業⑦：	竹鼻祭の学術的な調査研究事業(自主事業)	実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　33　年度
事業概要：	竹鼻祭の山車1輌1輌の歴史や特徴、設計図等の情報を収集し、まとめる。		
評価指標区分：	・その他		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	竹鼻祭山車保存会の会員団体数		
目標値：	【現状値】 平成　28　年度　13　団体 ⇒ 【目標値】 平成　33　年度　13　団体		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度
13　団体	団体	団体	団体	団体	団体
100%					

事業⑧：	普及啓発事業	実施団体：	羽島市伝統文化活性化事業実行委員会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成　27　年度 ～ 平成　30　年度
事業概要：	専門家を講師として招き、幕や山車、祭りに関わる芸能や歴史についての研修会を行う。		
評価指標区分：	・その他		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	竹鼻祭山車保存会の会員団体数		
目標値：	【現状値】 平成　28　年度　13　団体 ⇒ 【目標値】 平成　33　年度　13　団体		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度	平成　33　年度	平成　34　年度
13　団体	団体	団体	団体	団体	団体
100%					